

緊急のお願い

私達は平成24年法改正において、2回の院内交流会で、「殺す行政から生かす行政へ」、「動物取扱業の改革」、「実験動物関連業を動物取扱業とする」を訴えました。その結果多くが附帯決議とされて、殺処分ゼロへの大きな力になりました。しかし、これは法律ではないとして殺処分行政が継続しています。殺処分ゼロを実現するためにはこの集会が不可欠であり、会場をいっぱいにすることが、来年の法改正に繋がります。お一人でも多くのご参加、そのための拡散をお願い申し上げます。

[連絡先]

THE ペット法塾代表 弁護士 植田勝博

TEL:06-6362-8177、FAX:06-6362-8178

全国動物ネットワーク (ANJ)

TEL029-851-5580、FAX:029-851-5586

THEペット法塾・7月14日院内交流会、平成24年法改正をさらに進める
「2018年動物愛護管理法改正に向けて」

次第

一 交流会

交流会日時：平成29年7月14日（金）15時～18時

場所 衆議院第一議員会館大会議室（300人収容）

主催：THEペット法塾 共催：全国動物ネットワーク（ANJ）

司会：

- 1 開会の言葉 THEペット法塾代表 弁護士植田勝博
- 2 国会議員紹介・挨拶・メッセージ
「犬猫の殺処分ゼロをめざす動物愛護議員連盟」会長 尾辻秀久（参議院議員）
など

一 報告

- 1 行政の殺処分をなくすことを求めます
 - ① 「熊本県・被災動物の殺傷、告発、警察の受理」 鶴田真子美（ANJ）
 - ② 「熊本県動物管理センター収容動物の一の不正操作」
野中公彦（みやざき市民オンブズマン）
 - ③ 「狂犬病予防利権」 野中龍彦（ANJ調査員）
- 2 兵庫県の即日殺処分をどのようにしたらなくせるか。
 - ① 「兵庫県即日殺処分の実態」 岡田実千代（南あわじ市）
 - ② 兵庫県知事「即日殺処分」の告発 植田勝博（弁）
 - ③ 「兵庫県動物行政についての公開質問状」 岡田仁志（南あわじ市）
- 3 全国自治体「殺処分ゼロ達成」状況の報告 岡田仁志（南あわじ市）
- 4 野良猫TNR・餌やり妨害をなくして下さい。（野良猫殺処分ゼロ）
 - ① 「餌やりの規制チラシ・看板」京都野良猫保護連絡会 佐川久子/畑初美

- ② 京都地裁H29.3判決「餌やり妨害・損害賠償」 植田勝博（弁）
- 5 地域猫対策を進めるための法的整備について 高木優治氏（元行政）
- 6 行政、警察の現場とその改善の必要 溝淵和人（Cat28）
警察庁丁地 2 3 8（H25.12.24～H31.3.31）、生経通報（警察庁H28.5.23）
- 7 「次の法改正で必要なこと」
「犬猫の殺処分ゼロをめざす動物愛護議員連盟」会長代行松野頼久（衆議院議員）
〔休憩〕
- 8 ミニ講演「改正動愛法施行から4年」～不十分な規制がまねいた犬猫たちの不幸～
太田匡彦（朝日新聞記者）
- 9 実験動物業の登録制、実験動物の福祉の法改正を求めます。
- ① 「実験動物の福祉のために」 藤沢顕卯（ALIVE調査員）
- ② 実験動物福祉の必要性「実験動物の苦痛軽減について」（ネットから引用）
- ③ 実験動物福祉の必要性「アメリカはブタを飢えさせない」（ネットから引用）
- ④ 実験動物福祉の必要性「実験動物の苦痛と向き合う」（ネットから引用）
- ⑤ 「実験動物取扱業の現場の無規制の実態」 片岡利雄（弁）（資料）
- 10 被災動物の被害
- ① 「熊本地震被災動物の実態と法改正」 鶴田真子美（ANJ）
- ② 「災害時のペット防災対策の必要性について」 高木優治氏（元行政）
- 11 欧州連合（EU）は採卵鶏用バタリーケージ方式を禁止した
佐藤衆介（帝京科学大学教授）（予定）
- 12 法改正の意見
- ① 「伝統文化と犬・猫」 坂本博之（弁）
- ② 「平成30年動物愛護法改正の必要性」 渋谷寛（弁）（資料）
- ③ 「今、必要な法律とは」 佐藤泰子（静岡犬猫ホットライン）
- ④ 「動愛法第35条の改正に望む」 武藤安子（グリーンNet）
- ⑤ 「動物愛護管理法の問題点」 東京弁護士会会員
- 13 犬猫の殺処分ゼロをめざす動物愛護議員連盟 福島みずほ（参議院議員）

1 4 「私達が求める動物愛護法」

藤野真紀子（元衆議院議員）

二 会場からの法改正の意見と法改正の内容

（藤野真紀子、植田勝博、鶴田真子美等）

三 閉会の言葉

坂本博之（弁）（ANJ）